

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0590800397		
法人名	株式会社えがお		
事業所名	えがお上大町		
所在地	秋田県大仙市大曲上大町10番12号		
自己評価作成日	令和4年8月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.akita-longlife.net/evaluation/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 秋田マイケアプラン研究会		
所在地	秋田県秋田市下北手松崎字前谷地142-1		
訪問調査日	令和4年10月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

令和元年6月1日に開設した事業所です。私どもが提供させていただくものは「新しい生活です。」認知症になったからこそ訪れた新しい出会いの場であり、これからの人生の楽しみが始まるための場所でありたいと考えています。昔から得意だったことはもちろんですが、家では出来なかったことや今までに経験したことのないことにも取り組む機会があってほしいのです。出来ることがたくさんあることで自信を持ち、面白いことがあれば笑い、気に入らないことがあれば怒る。人として『あたりまえ』の日常を過ごす姿こそが『新しく何かを始めるために』というコンセプトのもとえがお上大町が目指しているものです。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

敷地内のデイサービス事業所が先に開設され、その時期から地域とは良好な関係を築くことができ、町内会の理解も得られて災害時の協力も約束されており、地域の一員としての役割を担いながら理念の実践に繋げていくことができるよう努力しています。コロナ感染防止のために今なお制限の多い状況で地域との交流は限られており、利用者の要望になかなか応えられないこともありますが、職員は利用者が一日を有意義に過ごせるよう支援しています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~46で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
47	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:19,20)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	54	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9,15)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
48	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	55	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,16)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
49	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:19)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	56	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
50	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	57	職員は、生き活きと働けている (参考項目:10)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
51	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:41)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	58	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
52	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	59	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
53	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	『地域と共に』という理念のもと、19年にわたり地域の認知症介護の拠点として取り組んできた活動や現在目指しているものを年に一度代表者から全社員に向けて研修を実施し、確認している。新人職員にも必ず実施している。	運営の基本としての理念の実践のため、地域との繋がりを大切にし、介護の場面で活かしていくことができるよう努力しています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議へ町内会長ご参加いただいている。昨年度は中止となってしまったが町内会と弊社デイサービスの交流が盛んであったためコロナが落ち着き再開する時には当事業所も協力させていただくこととなっている。	コロナ禍で町内における積極的な交流は難しい状況ではありますが、町内会長とは運営推進会議を通じて繋がりが保たれています。利用者が近所の商店で買い物をし、地域で暮らし続けられるよう取り組んでいます。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	地域向け広報誌紙を発行し、認知症なんでも相談所の窓口であることをお知らせしている。今年度は新型コロナウイルス対策のため控えているが、本格的な交流を図ることが出来るように検討中である。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議を通して事業所の取り組みを知っていただくことはもちろん、中の様子が開かれたものとなる機会として利用者状況や活動報告、及び身体的拘束適正化検討委員会・虐待防止検討委員会の実施をすることで意見を頂けるように工夫している。	書面上ではあるものの会議メンバーと意見交換しています。質問事項に回答し、意見やアドバイスをサービスの向上に活かしています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	生活支援課や社会福祉協議会など利用している制度を通して担当の方と顔なじみの関係を築いている。また、運営推進委員の方を通じて行政からの協力も頂いている。	運営推進会議でアドバイスをいただいたり、介護保険時事務所、包括支援センターと日頃から連携を図るよう努めています。	
6	(5)	○身体拘束及び虐待をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び「高齢者虐待防止関連法」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組むとともに、虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年度に2回の研修を実施している。また、運営推進会議時に身体拘束等適正化検討委員会と虐待防止対策委員会を開催しており、議事録の回覧を実施している。現状として身体的拘束や虐待にあたる事例は無い。	現在拘束及び虐待の事例はなく、職員も理解して取り組んでいます。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要な利用者には日常生活自立支援事業を活用している。管理者が社会福祉協議会への申し込みから現在に至までの対応を担当し、毎月のやり取りの支援を職員が行っている。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	見学や契約時、または面接時に十分に時間を設けて説明をしている。利用にあたっての制度の質問等についても説明し、可能な限り納得した上で利用してもらえるように努めている。解約の際も同様に十分な話し合いを行っている。		
9	(6)	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、要望、苦情等を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、適切に対応するとともに、それらを運営に反映させている	家族からは面会時にご意見やご要望を伺い対応している。利用者からは日頃の会話から要望をくみ取るように心がけている。必要時は記録を行い対応について共有できるようにサービス担当者会議や職員会議を通して周知している。	年1回の家族アンケートで意見、要望を収集し、運営に反映できるよう努めています。介護計画の見直しの際にも書面を通して等、できる限り意見を出していただけるよう工夫しています。	
10	(7)	○運営や処遇改善に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営や職場環境、職員育成等の処遇改善に関して、職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを適切に反映させている	毎週1回管理者会議が開催されており、職員や利用者の要望を報告することが可能となっている。急を要する案件であれば、管理者から総合施設長へと報告・相談をすることで対応している。	管理者を通じて、また法人内の各委員会を介しても意見、提案を述べる機会があり、反映されています。	
11		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ以前は日本認知症グループホーム協会の開催する大会や研修への参加や県社会福祉協議会主催の研修への参加を積極的に勧めている。また、大曲仙北地域密着型介護事業者連絡会にも所属し交流している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	可能な限り本人の言動に耳を傾け、困っていることや不安な事を把握できるように努めている。職員間でそれを共有し対応することで、安心につなげる努力をしている。		
13		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用開始前は家族が困っていることが多いためより気を付けながら要望を伺い、利用開始時の様子などを電話で報告するようにしている。毎月のお便りや写真を送ることで日常を把握できるようにしている。		
14		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	調理や掃除、洗濯に関することなどに対して利用者が「これは自分の仕事だもの」と話しながら取り組んでいる。利用者側から職員へ教えてくれることも多く、良い関係を築くことが出来ている。		
15		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族から利用者に対して関わりたいという申し出が多くあり、コロナウィルス対応のため制限された間も手紙や差し入れがあり、リモートや電話での交流も行われている。		
16	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように、支援に努めている	コロナ前は友人の面会は比較的多く、特定の利用者のみではなく複数の利用者へ見られた。散歩コースにも思い出の場所があり、途中で知り合いに会って立ち話することも良く見られていた。	行きつけの理美容院や商店の利用は続けており、利用者のやりたいという気持ちに沿うようにしています。リモート面会をしたり、電話で話す利用者もいて家族の協力も得ながら関係継続の支援に努めています。	
17		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士仲が良くなる場面や、口論となる場面があるため状況に応じて仲介することに努めている。散歩や外出の際にも利用者同士が気を遣わないことや歩くスピードなどを考慮した組み合わせにしている。		
18		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院して退所された方の次の入所先を相談し、申し込み等の支援をさせて頂いている。退院後の経過など家族から連絡を頂き、入所先の相談員からもその後の状況を教えてもらったりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向、心身状態、有する力等の把握に努め、これが困難な場合は、本人本位に検討している	可能な限りそれぞれの希望に沿った日課や行事を提供するように努めている。全員で参加することが困難な利用者に対しては個別に対応することや本人の反応を伺うことで楽しめているかどうか見極めるようにしている。	日々の関わりの中で利用者の意向を把握できるようにしています。利用者をよく観察し、気づいたこと等を記録に残し、職員間で共有しています。	
20		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居に際しては家族だけでなく担当のケアマネジャーや前施設及びサービス利用時の情報提供をお願いしている。本人が入居後に話してくれる情報も記録して共有することに努めている。		
21	(10)	○チームでつくる個別介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した個別介護計画を作成している	家族からの要望や意見を頂き、本人の日頃の様子や言動をふまえ、職員からの意見やアイデアを出してもらい、医師や看護師からの意見などを反映させて作成している	毎日の詳細な記録がモニタリング、アセスメントに活かされており、介護計画の見直しにも役立っています。家族からは書面で或いは電話で要望を聞いています。	
22		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や個別介護計画の見直しに活かしている	毎日の様子を生活記録や特記事項へ記載し、困っていることだけでなく、本人が希望していることなどを記載することで職員間で情報を共有をし介護計画の見直しに繋げている。		
23		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	商店街に位置する施設であるため、歩いて買い物に行くことが可能となっている。地域を歩くこと、時々買い物に参加することなどが本人にとって活力になるよう支援している		
24	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月1回かかりつけ医の訪問診療を受け、必要時医師の指示により受診も行っている。かかりつけ薬局からも内服時の注意点を教えてもらうなど連携出来ている。	それぞれの希望に対応しており、適切な医療支援が行われています。	
25		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	非常勤看護師が週に1回訪問しており、状態の報告、新たな対応を要するかどうかなどを話し合っている。定期的にケアに対する意見を出してもらうことでケアプランに反映させている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時はこれまでの生活状況をできるだけ細かく伝達し、情報の共有に努めている。入院中も病院のワーカーさんと連絡を取り合い、退院後の相談なども密に行っている。		
27	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りを実施するかどうかは個々の状態に合わせた対応になることを契約時に家族へ説明している。まだ実際の例がなく、協力医との細かいやり取りはできていない。今後そのような事例があれば本人・家族が納得できる形を選択できるよう努めていきたい。	家族の希望があり、終末期に向けて医師の協力が得られることも確認しています。職員はホームの指針を共有しており、今後に向けて準備を整えています。	
28		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDを設置しており、開設時に普通救命講習とメーカーからのAED取り扱い講習を受講した。また、必要な職員には、毎年社内研修で普通救命講習を受講してもらっている		
29	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2度の火災想定防災訓練、1度ずつの水害対応防災訓練と地震想定防災訓練を計画に組み込んでいる。特に水害については大規模な災害が身近なものとなっていることから隣接する施設との連携した訓練を実施している。	マニュアルの作成についても意見を出していただく等、地域との協力体制ができています。避難訓練では消費期限の迫った備蓄食品を順次活用しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	それぞれの性格や大切にしていることを把握することに努めている。言葉遣いにも気を配り、利用者の誇りや自尊心を傷つけないよう対応している。	かしまった物言いになり過ぎないように気をつけ、また、利用者がそれぞれの思いで過ごすことができるように対応しています。	
31		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	美容院での髪染めやパーマなど個々の要望に応じてそれぞれの行きつけの店を聞き取りしている。衣類は基本的には家族が準備しているが、希望に応じて利用者本人と買い物に出かけることもある。		
32	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の加工や盛り付け、後片付けに至るまでの工程に複数の利用者から参加してもらえるようにしている。包丁を使用することもお願いし、危険につながる硬い食材を避けるなどの決め事をするこで対応している。	利用者の希望に随時対応してメニューを決めたりしながら、食事がより楽しみなものになるよう支援しています。外食を控えていることから、ドライブをしてお弁当をいただき、外食気分を味わっています。	
33		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食時の食事摂取量や水分摂取量を記録しており、不足がちな方へは捕食や水分補給などこまめに行っている。また、気分や体調によって居室での食事を希望される方もおり、都度対応している。		
34		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時及び毎食後の口腔ケアを実施している。個々に対応し、声掛けから介助まで必要なことを介助している。夜間の義歯洗浄もすぐに返して欲しい方へある程度の時間をお預かりできるよう声掛け・工夫をしている。		
35	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し適宜声掛けや誘導をすることで、失敗しないよう支援している。また、歩行状態に不安がある方でも状態に合わせてポータブルトイレを活用したり可能な限りトイレでの排泄を支援している。	自立している方もおりますが、チェック表で管理し、一人ひとりの状態に合わせて支援しています。	
36		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々のアセスメントに基づき、本人が苦しくない排便の周期を検討し、飲み物や内服によって安定した排便となるように努めている。内服に関しては看護師、医師との相談の上で、日常を知る介護職員が調整を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	時間帯や日程はある程度決めさせていただいているがその都度体調を伺い、本人の希望によって時間帯の変更や日程の変更に応じている。	週2～3回、利用者の状態、希望に合わせて、ゆっくり入浴できるよう支援しています。	
38		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりがそれぞれの生活習慣を構築しながら、自由に休息が取れるようにしている。夜間も安心して眠ることができるよう個々の対応にも気を配りながら支援している。		
39		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々にかかりつけ医、かかりつけ薬局があり、非常勤看護師とも相談している。日常の変化についてはその都度医師へ報告しており、対応の結果は記録し周知している。それぞれの関係者に随時相談できる体制が整っている。		
40		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日課としての家事はもちろんのこと散歩や体操、運動などを生活の中に取り入れていくことで歩行する力を維持し、外出や買い物それぞれの能力に応じて楽しめるように努めている。		
41	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	可能な限り散歩や買い物の要望に応じており、すぐに出来ない場合は時間や日を改めることを提案し対応している。コロナの影響で外食の機会は無くなっているが散歩など日常的に行っている。	利用者の外出したいという思いに沿いたいと努力していますが、以前よりも外出の回数は減っています。それでもできる限り希望に沿って出かけることができるようにしており、ホームの外に出ることで閉塞感のない暮らし方ができるよう支援しています。	
42		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	居室に財布を持って金銭管理している利用者があり、混乱が無い確認しながら対応している。買い物へ外出し、自ら支払いをする機会も設けている。管理が難しかった方については本人・家族に説明してお返したりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	建物の構造上光が届きにくい居室や箇所があるため必要時は日中でも電気をつけるなど対応している。ホールの壁にその時々の飾りつけをしたり、観葉植物を置いたりしながら、季節を感じながら楽しめるような工夫をしている。	ホールや玄関に観葉植物を置いて花好きな方にお世話をお願いし、週刊誌の好きな方には本棚に置かれています。ホールに面した場所にある居室とトイレの出入りがホールから見え過ぎない造りになっています。	
44		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファースペースとテーブル席、居室があり、その時の本人の気分や状況に合わせて職員の働きかけで使い分けることが出来ている。利用者間の交流も盛んである。		
45	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には家族から写真や飾りが準備されることが多くあり、基本的には自由としている。また、こちらからのプレゼントなども飾る場面が見られている。本人が買い物の際に好みのものを購入し飾ったりできるように支援している。	自分の好きなものに囲まれて暮らせるからこの生活は快適だと利用者が話している通り、使い慣れたものの持ち込みを勧めています。遺影を置いている方もおり、それぞれの生活の場としています。	
46		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	歩行に不安がある方には手すりを利用して移動できるよう廊下やトイレ内・浴室内に多くの手すりを設置している。また、居室前には表札をつけており、それぞれの自室が分かるよう工夫している。		